

平成24年7月8日

父母について

西東京本部 浜田山支部
畠山 拓巳

ぼくは、お父さんとお母さんにいろいろなわざを教わって、ぼくの心の中で「こうやるんだ。」と思いました。

早く、すすみたくて、すすめなかったときは、ちょっとめんどくさくなってしまう時もありました。

ぼくは、空手のわざでお父さんとお母さんに「しこが上手だね。」とか「つきが上手だね。」といわれると、とてもうれしかったです。

ぼくは、空手のれんしゅうがある時は、き本の1本目から五十四歩まで、ひととおりのれんしゅうをして「全体てきに“ぎつ”だよ。」といわれた時は、とてもくやしいきもちがありました。

ぼくが1級になったばかりの時に、五十四歩をお父さんとお母さんが教えてくれて「こうやるの。」と思った時、ちょっとむずかしいと思いました。

ぼくが、1級になって1年くらいたってから、お父さんとお母さんが五十四歩を見て「ここは上手だね。」とか「ここは、ちょっとちがうよ。」とか、まちがえすぎて、あたまにはいらないうらい、たくさんいわれる時もありました。

お父さん、お母さん、色おびのわざをたくさんおしえてくれて、ありがとうございました。

ぼくの今年のもくひょうは、少年少女の初だんにごうかくして、古ぶどうの“ぼうじゅつ”の初だんをとることです。